2017年トレンド予測

進学領域



進学領域のご紹介



スタティサプリ

進路選択

スタディサプリ進路

高校生の進路選択をサポート



http://shingakunet.com/

学習

スタディサプリ

小・中・高校生向けの オンライン学習サービス



http://studysapuri.jp/

ステークホルダーへの情報発信

大学経営層対象

高校教員対象

カレッジマネジメント



キャリアガイダンス



リクルート進学総研サイト



http://souken.shingakunet.com/

進学領域における2017年予測



キーワード

大学の図書館が、学びのHUBになる。

ラ イ ヴ

Liveラリー



- ■大学の図書館が変化している。
- ①グループワークルーム、プレゼンホールがあり、②留学生との国際交流の場が設置され、学部や学年・国籍を超えて、学生が主体的に学ぶ③居場所となっている。
- ■特定の学部に属さず、学習資料が完備している図書館に、従来のゼミ室・教室・ プレゼンホール・学生センター・国際交流センター機能が付加され、学びの中心・ HUB拠点になっている。
- ■背景としては、
- ①大学教育に期待されることは、座学のみならず、他者とチームを組み、アクティブラーニング型学習で思考力・判断力・表現力を習得すること。
- ②2017年以降大学に入学する学生は、アクティブラーニング型学習経験世代。

ここは大学のどの施設でしょうか?





大学の図書館ってどんなイメージでしょうか?



従来

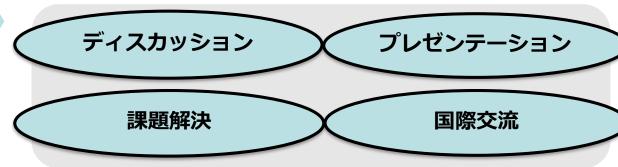
現在

一人で

静かに読書・勉強する



学年・学部・国籍を超えた仲間と





Liveラリーの特徴①



レイアウトも自由自在







Liveラリーの特徴③













プレゼン ホール 空き時間の居場所

図書館

学生 センター 国際交流センター

特定の学部・学科に属さず、ICT等の学習情報を持つため、学びの中心として最適

「図書館」が学びの中心・HUB拠点に

【背景】Liveラリーがなぜ必要か?①



①企業の			
	大学生への期待		大学の教育への期待
期待 1位	論理的思考力 や 課題解決能力 を 身につける	1位	双方向型、学生参加型、体験活動 を 含む多様な授業の実施
2位	チーム を組んで 特定の課題に取り組む	2位	大学教員の教育力向上に 向けた取り組みの強化
3位	専門分野の知識を身に つける	3位	TA/RA *による双方向型、 少人数指導の徹底

(社)日本経済団体連合会「産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート」2010年実施 (大学への期待n=1,172社 大学の教育への期待n=575社) *TA/RA: ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタント

企業が大学に期待するのは、 「指示待ち社員からの脱却」

【背景】Líveラリーがなぜ必要か?②



②高校生 保護者 教員の 認識

今後必要となる能力							
	高校生	保護者	教員				
1位	主体性	主体性	主体性				
2位	実行力	実行力	課題発見力				
3位	発信力	規律性	実行力				

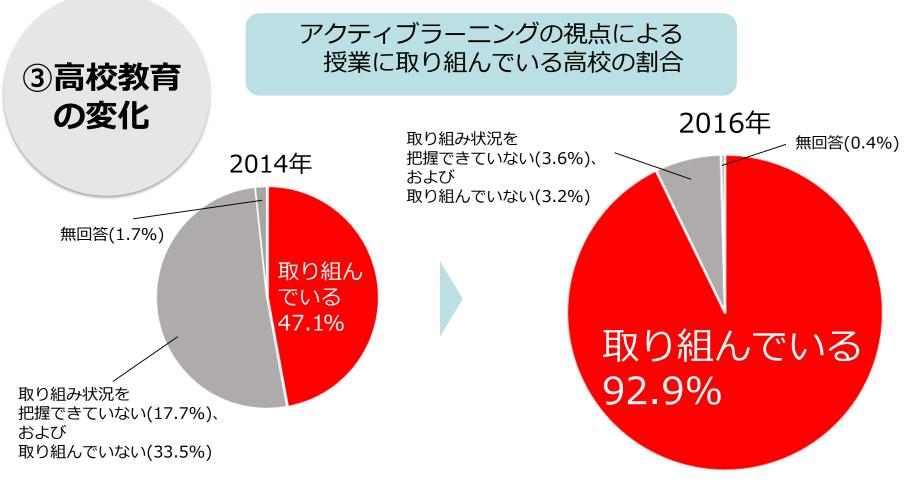
今持っている能力							
	高校生	保護者	教員				
1位	傾聴力	規律性	規律性				
2位	主体性	主体性	傾聴力				
3位	規律性	傾聴力	柔軟性				

高校生:リクルート進学総研「高校生価値意識調査」2015年実施(n=1,437)/保護者:一般社団法人全国高等学校PTA連合会・リクルート進学総研 「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2015年実施(n=1,584)/高校の教員:リクルート進学総研「高校の進路指導・キャリア教育に関する調 査」2016年実施(n=1,105)

「主体性・実行力・発信力」等が必要だが 高校生が今持つのは「空気を読む力」と認識

【背景】 Liveラリーがなぜ必要か?③





リクルート進学総研「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」(2014年: n=1,140 2016年: n=1,105)

2017年以降に大学に入学する学生はアクティブラーニング型学習経験世代

【背景】L^{j イヴ}eラリーがなぜ必要か?



今まで

知識の「習得」

教室での一斉講義型授業 (チョーク&トーク)

学びの機能が拡散 (留学生は国際交流センター のみ等)

これから

知識の「活用」「創造」 → 思考力・判断力・表現力

アクティブラーニング型の学び (深い学び、主体的な学び、 対話的な学び)

> 図書館が 学びのHUB拠点に

【事例1】龍谷大学「和顔館」(2015年)





学部や学科・国籍を超えて「やりたいこと」でつながる ディスカッション・交流の場

スチューデントコモンズ



グローバルコモンズ



ナレッジコモンズ



■学生の声



政策学部2年生 櫻井さん

ディスカッション

地域課題を解決するNPOを立ち上げるため、仲間と議論しています。

地域課題に興味があり、先輩や仲間とNPOを立ち上げる準備に使っています。集まりやすく、PCやホワイトボードなど揃っているので和顔館でディスカッションしています。



経営学部2年生松田さん

国際交流

「国際交流」に興味のある仲間と出会 い人脈が広がりました。

「国際交流」に興味のある留学生や他 学部の先輩と出会えました。交流委員 会に入ってイベントを企画したり、海 外と日本の橋渡しをする将来の夢に向 け準備をしています。

96

【事例 2 】 創価大学「SPACe」(2013年)





自主セミナーや 国際交流イベント開催など 学生主体で作る学びの中心











■学生の声

セミナー開催・プレゼン



教育学部4年生中山さん

韓国の言語や文化を学ぶ自主セミナーを開催。

留学した韓国の文化や言語を皆で学ぶセミナーを自主開催しています。 運営スタッフにもなっていて、来館者が増えるよう日々アイデアを出し合っています。



法学部4年生 西田さん

国際交流・イベント参加

いつでも英語を話せる場。留学生とさまざまなテーマでディスカッション。

留学生1人と学生5人でさまざまなテーマについて話すイベントが毎日開催され、参加して英語力を磨いています。 学生の語学力にあわせたイベントやセミナーが充実していて参加しやすいです。

進学領域における2017年予測



キーワード

大学の図書館が、学びのHUBになる。

ラ イ ヴ

Liveラリー



- ■大学の図書館が変化している。
- ①グループワークルーム、プレゼンホールがあり、②留学生との国際交流の場が設置され、学部や学年・国籍を超えて、学生が主体的に学ぶ③居場所となっている。
- ■特定の学部に属さず、学習資料が完備している図書館に、従来のゼミ室・教室・ プレゼンホール・学生センター・国際交流センター機能が付加され、学びの中心・ HUB拠点になっている。
- ■背景としては、
- ①大学教育に期待されることは、座学のみならず、他者とチームを組み、アクティブラーニング型学習で思考力・判断力・表現力を習得すること。
- ②2017年以降大学に入学する学生は、アクティブラーニング型学習経験世代。